

おふろ

清水 めぐみ

(豊田・駒場小2・昭和54)

夜、お母さんと おふろに 入りました。おにいちゃんも まっくんも いっしょです。

お母さんは、交つうじこで ひざこぞうを 十はりも ぬったので、足が まげられません。歩く 時や、かいだんをのぼったり おりたり する 時も、とても いたそうです。だから、おふろの 中には 入らないで、トイレの ところであらいます。

わたしは、おゆから 出て、お母さんの 足の 先の 方を あらって あげる ことに しました。いたいと いけないので、

「いたく ない。」
と、ききながら、そっと あらって あげました。お母さんは、うれしそうに、でも 少し なきそうな かおで、

「いい 気持ちだね。」
と、いいました。わたしは、お母さん、また なくのかなと 思いました。お母さんは この ごろ しんせつに して あげると、すぐ なくのです。きつと、うれしいからだと思いません。

こんどは、お母さんの せなかです。わたしが あらって あげようと すると、お兄ちゃんが ザバツと おゆから 出てきて、

「なんだあ、ぼくが あらうんだよ。」

と、おこったように いいました。お母さんの せなかはいつも とりあいっこに なって しまいます。それで、お兄ちゃん、せなかの 右がわ、まっくんは せなかの 左がわ、そして、わたしは まとめて きれいに あらいながして あげる ことに しました。

「お母さんの せなか 大きいねえ。」

と、いいながら ごしごし あらって あげました。あらいおわると、お母さんが みんなの かおを ながめながら 「ありがどうね、とても さっぱり したよ。」
と、にこにこした かおで いいました。

つぎは、お母さんが わたしたちの 頭を あらって くれる 番です。

「まっくんから やるかん。」

と いった そうつと あらいはじめました。じこの 時に まっくんは 頭を けがしたので、いちばん ちゆういぶかく あらうのです。つぎは、お兄ちゃん。さいごが わたしです。みんなが あらって もらうのを 見ながら、早く して くれなにかなあど、思っていました。

「お兄ちゃんの 頭を あらうのは かんたんだけど めぐみちゃんのは めんどくさいね。」

と、いいながら あらって くれました。とても さっぱりして いい 気持ちでした。

さいごに、もう いちど おゆの 中に入って、お兄ちゃんたちは 出て いきました。わたしは、お母さんと 学校の

ことや お父さんの ことを 話しながら ゆっくり 出て
いきました。みんなでおふろに 入るのは、ほんとうに 楽
しいなあと思いました。

じこに あう 前は、こんな ふうに みんなで おふろに
入る ことは、ありませんでした。おつかいでも おそうじで
も、いままでは いやいや やって いたけど いまは お母
さんに いわれると すぐ やるようになりました。じこに
あった ことは、とても いやだけど、その ために みんな
いい 子に なれたのかなと 思います。お母さんだけが お
ふろに 入って いる 時や、おりよりの てつだいを し
て いる 時に、ときどき ぼろぼろ なみだを ながしま
す。

わたしたちは、もう すっかり 元気に なりました。お母
さんも 早く 元気に なって ほしいと 思います。

※当時の表記をそのまま掲載しています。